

## 和歌山の美についての価値観

Huynh Le Kim Ngan

日本語・日本文化研修留学生 ベトナム

5月初めのある日、産経ニュース、「5万本のラベンダー咲き誇る 和歌山のハーブ園」というタイトルを見た。読んでみたら、私が住んでいる和歌山市の「西庄ふれあいの郷ハーブ園」で、5万本のラベンダーが咲いているという記事で驚かされた。なぜなら、ラベンダーは日本の北のほうだけにあって6月下旬から咲き始める花だと思い込んでいたからだ。勘違いした私は次の日自転車でそのハーブ園へラベンダーを見に行った。その公園は高い坂の上であり、到着したら息が切れたり疲れたりしてしまった。しかし、登った努力は報われた。景色は予想どおりきれいだった。公園の中にあふれているのは涼しい紫色のラベンダーだけではなく、ピンクや白などの他の花もある。来園者は多くなく、春の香りをのんびり味わえる。他の有名な公園のようにものすごい人出で混んでいる姿ではなくていい気分になった。ある二人のお年寄りがベンチで座って相手に傘をさしかけていた。花、空気だけでなく人々の心も温かい春味にあふれている。ずっと日本の北へ見に行きたかったラベンダーを目の前に見て、私は、どこか遠いところにある美を追いかけていて、その美が自分の身近にあるのが気づかないことがわかった。自分の身近にある美というのはいつも普通のことに覆い隠されているものだと思う。



日本語ボランティア先生の夫婦と一緒に和歌山市の周りを散歩していた日を突然思い出した。和歌山城を見物してから、先生の昔のお住まいを訪れに行った。途中で多くのお寺に気付いた。外見から見ると普通な感じで人の家と混じっているから、よく注意しないとわからないと思う。中に入ると私たちが迎えたのは閑静な情景だ。周りがある彫像の姿はもっと沈静で雄大だと感じた。私はまた驚かされた。なぜなら日本に来る前、京都の有名なお寺へ是が非でも観光に行きたいと思っていたが、実際に行って、期待



とは違ったので少し失望したからだ。お寺の依然として沈静な姿の代わりに、大勢の観光客で混雑する様子だ。お寺の本の雰囲気を経験したいという気もなくなった。それなのに、和歌山市にある無名のお寺に入ったとき、混雑などではなく、まるで奇妙でもあり親近感でもある息がどこかから聞こえたかのような沈静な姿を見てその雰囲気をあっさりと感じられた。それが、有名な観光地などではなく、和歌山市の小さい片隅にはある。一見、普通に感じるのに、内に予想外美を内包している。私の和歌山も同じだと思う。

和歌山はまるで小さい女の子のようで、東京さんのように華やかなではないし、大阪さんのように若々しくもないし、京都さんのように高貴ではない。その子は薄いピンクのワ

ワンピースを着て髪に白い梅の花をつけて手で完熟したミカンの籠をもって、一見何も特別ではなさそうに見える。しかし、よく見ると、その子は海と山の和やかな香りをもって、周りの人を安心させると気づいた。それだけでなく、みんなを誘ってミカンと一緒に味わおうという姿もある。本当に優しい子だ。よく見れば見るほど、和歌山という名付ける子ならではの独自の美しさだとわかった。

朝日新聞に載ったある話が私には強く印象に残っている。「群馬県の上野村に暮らすおばあさんに「この村から一度も出たことのない私が言うんだから、間違いない。この村が日本で一番良いところだ。」と言われたと。自分を作り出している村は、比較する必要もなく、一番良いところである」という感動的な話だ。そのおばあさんと同様に私にとっては、和歌山が自分の第二の故郷のようで、日本でどこより良いところだと思っている。愛している人も愛されている人もあって、自分の居場所も見つかった。そこで、和歌山の独自の美を自分なりに探している。もしかすると華やかなラベンダーだけでなく、珍しい桜の種類「御衣黄」なども見られるかもしれない。

したがって、価値のないつまらない場所ということのような場所はないと思う。いずれのところも別の美を持っている。ただ普通の外見に覆われている美が少なくない。じっくり見ないことにはとらえられない。そのため、自分の住んでいるところにどんな美があるか、一度見直すべきだ。そうすると、予想外面白いことを見つけるだろうと思う。

